

野外運動研究室ニュースレター



編集：筑波大学野外運動研究室広報係
発行：筑波大学体育系野外運動研究室
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1
TEL/FAX 029-853-6339

【巻頭言】

「野外運動研究室を出る」ときに持つべきもの

佐藤 冬果 (MC1)

先日、無事に論文発表会が終わりました。今年度の論文生の皆さんはこれから始まる新たな道へ、野外運動研究室に残る面々は来年度に向けて、期待を膨らませていることと思います。

そんな時期なので、ふと、自分はどのようにこの野外研を出ていくのだろう…なんていうことを考えています。数ある選択肢の中から野外研での生活を選んだ自分は、どのような自分になってここを出ていくのか。

私の場合、ここで何がしたかったのか分からなくなった時、恥ずかしながら昔の日記を眺めています。定期的に日記をつける人間ではないのですが、キャンプで使ったノートにちょこっと、その時の気持ちが残してあるのです。初めてキャンプにスタッフとして参加した6年前から、様々な節目で、過去の自分がキャンプへの想いを言葉に残してくれています。恥ずかしいですが、少し紹介してみます。『キャンパー時代、カウンセラー達なんかには負けたくないくらいキャンプ好きだと思ってた。今度は、そんなキャンパーふゆかよりもキャンプが好きなカウンセラーふゆりんになりたい。』（初カウンセラーの時）。『キャンプは諦めようと思ったけど、楽しそうに遊ぶキャンパーとカウンセラー達を見ていて、やっぱりキャンプが好きだと思った。将来もこんな光景を見ていられるような、キャンプのプロになりたい。』（初PDの時)…なんて、アツ苦しい文章です。でも、読んでみると、自分は何を目指していたのか、私にとっての「野外研を出る」とは何なのか、気づかされます。

ただの一院生ですが、野外研の仲間たちには、せっかく野外研での生活を選んだのだから、出ていくときには、何か野外研でしか得られないものを持って出てほしいと思うのです。専門的な知識や技術、そして仲間はモチロンですが、最近では、糧になる「言葉」を持って出てほしいなと思っています。感情を揺さぶられることの多い野外研だからこそ、持てるものだと思うのです。そして必ず、将来の自分を助けてくれるものだと思います。

真の「知識・技術・仲間・言葉」を持つには実践あるのみ。野外に飛び出してこそ、得ることが出来

る。院生として、皆で外へ飛び出す機会をたくさん作っていくつもりです。ぜひ一緒に、野外へ出ていきましょう。出来れば、メモとペンを持って。そして胸を張って野外研を出ていきましょう。

【授業関連報告】

○専攻生雪上実習

北川 武 (UG3)

12月18日から12月22日の日程で長野県の菅平で雪上実習を行った。今回の雪上実習は、多くのことを学ぶ貴重な体験となった。アルペンスキー技能の向上はもちろんのこと、実習の運営をする上での各係の運営、ディベート、教材作成、一人きりでのクロスカントリースキーなどなど。特に、私北川個人に関して言えば、装備係での管理不届き、個人別活動でのクロスカントリースキーの破損など、自分の日頃の身の振る舞いを見直すよい契機となった。また、最後の夜のパーティでは仲間の存在の大きさを改めて実感することになった。仲間と苦労も喜びも含めたさまざまな経験を分かち合うことで、共に成長していけることができるのだと強く感じた。これからもこの仲間を大切にしていきたい。次の実習は未定であるが、今、卒論という困難に立ち向かい始めている。この困難も仲間と共に乗り越えられることであろう。乞うご期待あれ。



専攻生雪上実習夕食時の1コマ

○体育専門学群雪上実習

加藤 拓史 (MC1)

1月11日～15日の4泊5日、菅平高原スキー場において体育専門学群野外運動(雪上)実習が実施された。今年度は、ラグビー部が直前でキャンセルになるなど、最初の参加希望者から人数が減ったものの最終的に82名の学生が参加となり、団長の野村先生をはじめとする筑波大学内外の先生方の指導のもと11班編成で実習が行われた。

実習前半は天候に恵まれ、初日午後には班編成を行い、2～3日目は班ごとの指導と順調に進んだ。しかし、4日目の根子岳登山の日は低気圧の影響で午後から吹雪になるという予報になり、根子岳登頂は断念し、菅平牧場を横切るショートコースでのツアーとなった。午後は吹雪の中圧雪のされていないゲレンデでの講習となり、根子岳頂上からのスキーでの下山はできなかったものの、十分オフピステの感覚を楽しむことができたのではないだろうか。夜のパーティーでは、各班力の入ったスタンプが披露され多めに盛り上がった。

参加した学生たちにとって今回の実習は、スキー技術の習得だけでなく新しい仲間を作る機会にもなったようで、様々な面で充実した5日間になったことだろう。

○論文発表会

日比野 (MC1)

平成25年1月26日に筑波大学野外運動研究室論文発表会が行われた。今年度の発表者はUGは鶴木、福塚、山川、吉田、MCは日比野であった。当日、福塚がインフルエンザで欠席してしまったが、無事発表会は成功を収めた。来賓の方もOBの方々を中心に多数お越しいただき、発表者の私としても身の引き締まる思いで発表を行うことができた。準備から懇親会までを通して、良い発表会になったと思う。さて、この一年の論文執筆の日々を思い返すと本当に中身の濃い一年であったと思う。特に修士論文生は私一人ということで、卒論生との仲が非常に深まった。夜遅くまで、研究室で同じ時間を過ごし、お互いを鼓舞しながら、また助け合いながら論文を書く日々は非常に有意義であった。野外での活動とは異なると思うが、それぞれが論文完成という目標に向かって過ごすことは、野外活動と同じ効果をもたらすのではないかと思うぐらい素晴らしい日々であった。来年度からはそれぞれ違う道を歩む事になるが、ここで得た経験は必ず生きてくると思う。

【課外活動関連報告】

○三学期勉強会

佐藤 冬果 (MC1)

3学期の毎週水曜日4限から、5C310にて勉強会が行われた。野外活動に関する知識や実技を取り扱った1～2学期とは違い、3学期は「論文勉強会」

とし、各週担当の院生が野外運動に関わる海外の論文を要約し、出てくるキーワードや研究手法を紹介する、という内容で行った。また、論文発表会前には論文生が発表練習を行い、質疑応答を行った。第1回は佐藤担当で『Instructor Influences on Student Learning at NOLS』(Scott A. Schumann, Journal of Outdoor Recreation, Education, and Leadership 2009)、第2回は日比野・鶴木・吉田による論文発表練習、第3回は加藤担当で『Facilitating Group Cohesion Among Adolescents Through Challenge Course Experiences』(J. Scott Glass and James M. Benshoff, Journal of Experiential Education, 2002)、第3回は清水担当で『Place-Based Education-learning to be where we are-』(Gregory A. Smith, Phi Delta Kappan, 2002)を取り扱った。今後は、あと3回を残しており、山川、梶田、久米が担当し、勉強会を進めていく予定である。



体育専門学群雪上実習パーティーにて

【告知内容】

①日本スキー学会第23回大会

日 程：平成25年3月22日(金)～24日(日)
会 場：志賀高原ゲートウェイステーション(長野県志賀高原)

テ ー マ：ソチオリンピックに向けて～オリンピックからのメッセージ～

参 加 料：会員…5,000円、非会員…7,000円(基調講演、シンポジウムは無料)、学生会員…4,000円

内 容：スキーに関する講演や研究発表が行われます。その他、ゲレンデでのスキーレッスンやスノーシューハイク等のワークショップも開催されます。

詳細は以下のURLから確認してください。

https://sites.google.com/a/js3.jp/top/conference_23

②2013シーズンスキー春合宿

日 程：平成25年3月23日(土)～24日(日)
会 場：福島県南会津だいらスキー場

対 象：スキーバッチテスト1級以上または同等

参 加 料：18,000円(宿泊、講習料、リフト二日、保険料)

講師：日本スキー連盟 (SAJ) スキー技術員
内容：茨城県スキー連盟が主催する茨城県内スキークラブの合同合宿の案内です。SAJ1級取得した人、準指導員受験を考えている人、技術選に出場してみたい人を対象に、スキーのレベルアップを図るための強化合宿が開催されます。興味がある人は向後先生まで連絡をお願いします。

「ショップ」発表が新たに設けられます。発表申し込みは以下の URL から行ってください。

申込締切：平成 25 年 4 月 5 日 (金)
詳細は以下の URL から確認してください。
<http://www.camping.or.jp/2013/02/525camp-meeting-in-japan.html>

③Camp Meeting in Japan 2013

日時：平成 25 年 5 月 25 日 (土) 13:00-19:00 (予定)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)

参加料：会員…2,500 円

学生…1,000 円

一般…3,000 円

内容：公益社団法人日本キャンプ協会が主催するキャンプの事例報告会です。今年は従来の実践報告・研究発表に加え、「ワーク

④日本アウトドアネットワーク 20 周年記念シンポジウム

日程：平成 25 年 2 月 20 日 (水) 13:00-16:30

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

テーマ：これからの OUTDOOR を考える

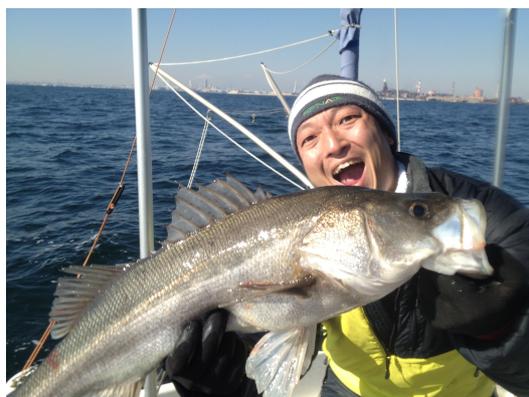
参加料：一般…500 円

学生…無料

内容：日本アウトドアネットワーク (JON) の 20 周年記念シンポジウムです。詳細は以下の URL から確認してください。

<http://www.jon.gr.jp/news/564/>

リレーコラム～OB・OG からのメッセージ～



98 年度卒業

フリービット株式会社

SI 本部統括室 田中 健介 さん

こんにちは、学籍番号 941956 の田中健介です。学籍番号を今でも記憶していることに驚きますが、簡単に僕の野外運動研究室ライフの紹介と社会人になってから野外研での活動を振り返ってみました。

私は当時は珍しく野外運動研究室で野外教育を学ぶために入学しました。花山キャンプにどっぷり染まり、カウンセラー活動を通し鍛えられ、また楽しみました。他には、季節に応じて海/冬山へ。勉強面は決して褒められたものではなく、貴重な留年も経験しました。井村先生にご指導いただいたにも関わらず、自分自身で何がわからないのか分からない、という良くない状況でした。今でも睡眠中に「まずい！また留年するっ!!」とうなされて目が覚める程に強烈な経験として身に刷り込まれています。

そんな事はどうでも良いですね。社会人としての 10 年間で野外と絡めて振り返ってみます。社会人初期は IT 系ベンチャー企業の営業部に配属されました。体力があって根性のある人間を求めているようです。履歴書の体育専門学群卒業という文字は、人事部採用担当にとってかなり魅力的に映ったのだと思います。とにかく未知の事ばかりなので持ち前の体力気力ががむしゃらに先輩社員のやる事いう事を模倣しました。どんなに徹夜しても、花山のサバイバル登山プログラムや夜中まで続くスタッフミーティングに比べれば楽なものでした。客先に提出する資料作成も、論文書きで論理的思考を学んだおかげで (井村先生にはウソ言うな、と怒られそう) なんとかクリアできました。週末レジャーの大半は、周りの誰よりもリードできますので、周りからチャホヤされるモチ期が訪れました。と、ここまでは個人的なことですがこれまたどうでも良いですね。

僕が野外に行って良かった、貴重な経験(勉強)ができたなど感じるの、やはり会社の中での人間関係構築と仕事場面です。

- ・人/事象の観察力
- ・コミュニケーション能力
- ・先読み能力 (段取り力)

すべて相互に作用しますが、円滑にプロジェクトを推進するには、そこには必ず人が介在します。状況把握が必要です。指示や方向性を示して集団(チーム)の士気を向上させる必要があります。実は野外活動、僕はたまたま花山キャンプでの集団教育的キャンプでみっちり勉強させてもらえた幸運もあり、これら 3 つの能力を鍛えられたと思っています。

このように、野外運動研究室で学んだことの多くが社会人生活という実践(実戦)の場においてとても役立っていると思います。一般企業に就いたとしても、なにも心配ありません。先輩社員や経営者に戦力となる貢献度の高いスタッフとして認められると思います。きっと、どの分野/業界に行っても通用するのだと思います。

私は営業職ではありますが、今後は人事部で社内組織開発、グループ企業の組織強化といった分野にも興味があるので、チャンスを作って異動することも考えています。それが、野外研で経験したことを直接的に会社全体に活かされるのではないかと期待しています。

最後になりますが、社会人初期は素直でいるのが一番です。ですが世の中には悪い人もいます。野外業界には悪い人がいないので、そこのところは気をつけた方が良いでしょう。

【編集後記】

中野が仕事を放棄してブラジルに飛び立ったため、一人パソコンと格闘しました。こういう作業は苦手なので疲労困憊です...

担当：スキーがしたくてたまらない。安